



令和2年(2020年)11月5日(木)

公益財団法人広島平和文化センター

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館 副館長：大瀬戸

電話：543-6271

担当：橋本

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館 令和3年企画展
「この命つきるともー神父たちのヒロシマと復活への道ー」
開催のお知らせ

広島に原爆が落とされた1945年8月6日、イエズス会の幟町教会(爆心地から約1.2キロ)には4名の外国人神父がいました。2名は重傷を負いましたが、皆で力を合わせて教会の仲間や隣家の人を救い出した後、近くの縮景園へ避難します。

一方、広島市郊外、長束のイエズス会修練院(爆心地から約4.5キロ)へは、救いを求めて100名近くの被爆者たちが詰めかけ、8月6日の午後には野戦病院の状態と化しました。長束修練院の院長、アルペ神父は大学で医学を専攻した経歴があり、「今こそ私が身につけていた医学の知識を生かす時」と、直ちに自室を手術室に充て、他の神父や修道女たちと共に不眠不休の治療にあたりました。

この企画展では、被爆後の状況を克明に描いた外国人神父たちの体験記を通して、ヒロシマの復活への道をたどります。

1 会期および開催場所

期間 令和3年(2021年)3月1日(月)～令和4年(2022年)2月28日(月)

場所 追悼平和祈念館 地下1階 情報展示コーナー

2 展示内容

(1) 映像展示(大型3面映像、約30分)

被爆当時、キリスト教イエズス会の日本における活動拠点だった広島には、市の中心部幟町のぼりちょうにカトリック教会(爆心地から1.2km)が、郊外の祇園町長束ぎおんちょうながつかに修道会員を養成する修練院(爆心地から4.5km)が設けられていました。原爆投下後、それぞれの場所で何が起き、神父たちが何を経験したかを映像で伝え、登場人物たちのその後の人生やヒロシマの復興についても紹介します。

詩人のアーサー・ピナードさんがチースリク神父としてナレーションを務め、物語を進行します。

※ ナレーション収録(11月6日(金)～7日(土)を予定)への取材については、個別にお問い合わせください。

3 展示される主な被爆体験記

P・アルペ神父「広島ー原爆の記録ー」、H・ラサール神父「私の見たもの」

H・チースリク神父「破壊の日ー原爆体験記ー」、H・チースリク神父「広島ただしの平和記念聖堂」

J・ジームス神父「原爆!」、長谷川儀ただし神父「神はもう一度、生きることを望まれた」等

4 展示資料

溶けた祭具、神父の遺品、神父の体験記(直筆、当館蔵)等

